

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成30年5月31日(木)

2 委員出席者(9名)

委員長 大柴 邦彦

副委員長 卯月 政人

委員 臼井 成夫 鈴木 幹夫 石井 脩徳 宮本 秀憲

久保田 松幸 土橋 亨 古屋 雅夫

委員欠席者 なし

地元議員

浅川 力三 議員(北杜市)

永井 学 議員(甲府市)

飯島 修 議員(甲府市)

3 調査先及び調査内容

(1)【サンパーク明野ゴルフコース】(北杜市)

○調査内容(主な質疑)

問) 補助金の補助率2分の1は、全部、県単独ということでもいいのか。

答) 国からの補助金をそのまま使っており、県の上乗せ補助はない。

問) このボイラーで、チップを燃やすときに、煙などは、全く出ないのか。

答) 全く出ないということはないと思うが、性能のいいボイラーということで、燃焼効率が非常にいいので、煙は少ないと思う。

細かいところは、後ほど現地で見たい。

問) 民間の会社に対して、補助率2分の1ということだが、恐らくこれは公共に対しては何ら資しているところはないと思う。国が推奨しているから補助率2分の1になっており、こういう制度は、決して世の中にないわけじゃないが、一般の県民なり地域に、この事業は貢献しているのか。

答) 木質バイオマスの有効利用を図る中で、需要先をふやしていくという趣旨で補助制度があると理解している。

すぐ効果があらわれるわけではないが、今回のケースでも見学者が多く訪れるなど、普及啓発には寄与している。

また、松くい虫の被害木を燃料にしているが、用途のなかった未利用材を有効に利用しているという部分で、地域にも貢献していると理解している。

問) 私が聞いているのは、この事業が、この会社ではなくて、県民なり周辺に何か貢献しているのかということだが。

答) 今まで林内に放置されていた松くい虫の枯損木が有効に使われ、環境に配慮して進めていることや景観が良くなっていることから、ゴルフ場が率先して地域に貢献していると思っている。

問) 先ほど普及啓発と言っていたが、ほかどこか導入する施設等はあるのか。

答) 木質バイオマスボイラーの導入診断という形で、化石燃料を利用しているボイラーを、木質バイオマス燃料のボイラーに変更してもらうことを進めており、今時点ではまだないが、今後かえていきたいという意向で導入診断を受けているところは幾つかある。

サンパーク明野には、県内外の民間企業なども視察に訪れており、普及という面でこの施設が有効に活用されていると考えている。



※説明、質疑の後、サンパーク明野コースでボイラー施設を視察した。

(2)【新山梨環状道路東部区間】(甲府市)

○調査内容(主な質疑)

問) 新山梨環状道路の東部区間については、私も何回も議会で質問している。いよいよもう少しかなと思っているが、落合のランプの辺までの工区で、地権者の同意が得られない人がいると聞いたが現在の状況はどうか。

答) 用地については、東部区間1期工区で残り2名だが、1名はほぼ話がついており、残り1名という状況である。

問) 今まで、アイメッセのあたりから南区間の終わるところまで、朝晩、大渋滞になっており、近隣や通勤者が困っていたが、最近、国道358号の新々平和通りに繋がる道路ができたことで、そちらは解消したが、新々平和通りの方が朝10分以上、下り線が大渋滞となっていると聞く。あの道路の完成まで、あと2年だったか。完成後も、今の道路のままなのか。

答) 平成32年の完成予定である。

今の道路は、暫定の道路であり、西下条ランプというところをもう少し改良しなければならぬ。東部区間に延伸するに当たり暫定的に使っている道路であり、工事が終わったところで、もう一度元に戻すという話になると思う。

問) ちょっと今の土橋さんの質問に重複するが、清水課長の説明で用地買収があと一人だけというの、東部区間全体で一人だけということか。

答) いえ、1期工区でということ。

問) そうだね。いや、私が聞きたいのは、今回の説明は、限定されたところを言っているけれども、東部区間全体、国道20号の広瀬のあたりの用地買収はどうなっているのか。

答) まだ、そちらのほうは、現在設計を行っている段階である。

問) 用地交渉は、まだ全くやっていないのか。

答) やっていない。

問) いつごろから始めるのか。

答) 県側の設計が固まり、国道20号と交差する部分は、国交省との協議があるので、国交省の計画が決まったところで用地が確定する。その後、用地買収に入りたいと考えている。
平成32年からと考えている。

問) 平成32年から。2年も先の話。

答) 今、設計をやっているが、それがまとまらないとできない。ただ、下打ち合わせはしていきたい。

問) 東部区間の広瀬までは竣工までに、あとどのくらいかかるのか。

答) リニア開業までに、というのが目標ではある。

問) リニア開業というのは、10年後だが、それまでに東部区間を完成させようということか。もともとそういう予定なのか。

答) はい。

問) じゃあ、その先の2キロ、英和大学のところまでは。

答) 2キロ、国の計画がまだ正確に示されているわけではないが、同じペースで進むものと考えている。

問) あの広瀬から桜井までの2キロは国の直轄区間か。

答) はい。

問) じゃあ、直轄なんだね。その2キロもリニア開業までということか。

答) そのペースで進むと思われる。

問) 10年もかかるということか。2キロだけでも。

答) JR中央線を越えるなど、簡単な工事ではないと思われる。

問) 部長に尋ねるが、その先の北部区間、いまだ正式に決定はされていないが、国交省では優先順位というのがあるそうだが、どんな状況か。その先の北部区間は。

答) 環状道路については、現在、着手しているところをとにかく急いで進めるということで、県では東部区間、国交省では北部区間の広瀬・桜井間と甲斐市内の牛匂の方を進めると、国交省側ではなっていると聞いている。

それらの進捗状況を見ながら、北部区間の残り、甲斐市内の北側区間についても、できるだけ早く手をつけられるようにしていくという、優先順位を、国交省のほうではしている。

問) 今はできるだけ早くなんて言っているが、全然「できるだけ早く」ない。あと8年もかかるなんて。この東部自体が。

答) 全国的によく言われますのが、道路というのは、実際に事業に着手してから、大体10年というのが一つのタイムスパンだとよく言われている。私ども、それから、国のほうの広瀬・

桜井間も、本当にできるだけ早くということで、全力で取り組んでいる状況である。

問) あまりしつこく言いたくないけれども、10年だという認識のようだが、例えば今からリニア開業までということになると、北部の2キロも10年どころじゃない。2年ぐらい前からスタートしているわけだから。

例えば、その先の十何キロが、今は、明確な答弁はないが、私は優先順位が極めて低いと言われていると言ったが、優先順位のことについてはわからないのか、何か大変曖昧な答弁だったように思う。英和大学までが、まだリニア開通のころなんて、これやっぱり住民のとか、県民のニーズというか、理解というのか認識でいいのか、本当に、一般的には、とても理解されない。

リニア開業といったら9年も先だが、その9年も先に東部区間が完成する。事前に着手されている北部の2キロもあと10年もかかる、なんて、そんなものなのか。なぜそんなにかかるのか。

答) 県民の皆さんの感覚から言えば、なぜもっと早くできないのかという、そういうお声があるというのは重々よくわかっている。

10年というのは、一般的な相場観なので、今から10年というわけではないので、そういう意味では、広瀬～桜井は着手から2年がたっているの、あともう両手の指で足りるぐらいの中という、そういうカレンダー感覚という意味である。

実際、これだけの道路をつくるとなると、先ほど清水道路整備課長が申し上げたとおり、橋梁区間が相当ある、あるいはインターチェンジ等がかなり巨大なものになるということで、技術的にはやはりそれぐらいの時間はどうしても、工事だけでも数年単位の時間というものがかかってくるのが、現実的、技術的な制約としてある。

そういう意味で、我々としても、とにかく最大スピードでやりたいというつもりで取り組んでいきたいと考えているが、やはり工事には一定の時間がかかる。あるいはその前の用地買収についても、ある程度、大型物件等もあるので、そういうところを丁寧に説明して、理解していただくためにも、一定の時間がどうしても必要になってくると考えている。



※説明、質疑の後、新山梨環状道路東部区間1期工区を視察した。